

将来は新上越斎場への集約も視野に？ 市が新上越斎場の「整備方針」(案)を公表



市議会厚生常任委員会が21日開催され、市は新上越斎場建設事業の基本構想の前段階のものとして、整備方針(案)を示しました。

このなかで新上越斎場の方向性としては、①上越斎場は改築すること

とする、②施設計画の前提条件として、頸北斎場は長寿命化を図ることとし、柿崎、大湊、吉川区住民は引き続き、頸北斎場を利用することを前提とする。火葬炉設定にあたっては、現在、主に上越斎場を利用している住民に加え、妙高市の経塚斎場を利用している中郷区、板倉区住民の将来的な利用を見込んだものとする、③「将来の火葬需要や市民ニーズに対応できる施設」「人にやさしく、安心して利用できる施設」「効果的な施設整備と効率的な斎場運営」などを建設事業の基本コンセプトとする、の3点を示しました。

新斎場は火葬炉を6基程度、動物炉1基、待合室、多目的室、集骨室、告別室のほかキッズコーナー、授乳室などを設けるといいます。面積は約2000~3000㎡です。

説明後の質疑では、関連民間業者の経営を圧迫しない配慮、合併特例債の活用、建設予定地における土砂災害の危険性のあるなし、頸北斎場、経塚斎場の将来の利用者などについて多くの質問が出ました。

市側は「合併特例債は有用な財源として活用していきたい。事業費などは基本構想を固める中できちんとまとめて行く」「びょうぶ谷で確かに土砂崩れがあったが、都市整備部を含めたチームで現地確認するとともに、新井砂防の知見も借りて、イエローゾーンではないと判断した」「民間活力の活用については、可能

かどうかを来年度調査させてもらい、プラスに働くとになれば、導入していきたい」と答弁しました。

質疑の中で注目したことのひとつは将来構想です。

14市町村が合併して広い市域になっているなかで、1か所に集約することについては一昨年から関係住民の激しい反発の声が出ていました。そうしたことを受けて、「広域なので、もう1つ、2つあってもいいのではないか」(飯塚委員)などの声も出ていました。また番外発言をした丸山議員も経塚斎場利用者が将来、新斎場を利用することを見込んでいることに疑問の声をあげていました。

頸北斎場については、基本方針(案)で「頸北斎場は長寿命化を図ることとし、柿崎、大湊、吉川区住民は引き続き、頸北斎場を利用することを前提とする」とあったので安心していましたが、やりとりの中で、市側は、新しい上越斎場の火葬炉は頸北地区住民の将来の利用も考慮して6基として

いるとのべました。これについては、今後、大いに議論していかなければなりません。



【ヒメオドリコソウ】再掲です。シソ科の越年草。漢字で「姫踊り子草」と書きます。花言葉は「愛嬌」。気温が高かったせいか、春の花がこの花を含めいくつも咲いています。写真は12月23日、吉川区大乘寺にて撮影しました。



ほっとホットコンサート、今年も賑わい、満席に

今年の「ほっとホットコンサート」。会場の吉川コミュニティプラザは満席となり、椅子を次々と追加するほど大勢の参加となりました。

吉川中学校吹奏楽部の「マーチ 春の道を歩こう」、行進したくなるほど気に入りました。山岸協慈さんが演奏前に曲を解説し、その後、ギター演奏した「こだまの谷を逃げていく恋人たち」、物語が見えてくるようでした。「禁じられた遊び」もよかったです。高木いくのさんの素敵な歌、初めて聴きました。

コーラスサークル、「ゆりかご」の合唱は、私の予定があり、残念ながら聴けませんでした。



こんな形の切り干し大根も(大島区にて)

はしづめ法一の
活動レポート

No.1890 2018.12.30

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

将来は新上越斎場への集約も視野に？

市が新上越斎場の「整備方針」(案)を公表



市議会厚生常任委員会が21日開催され、市は新上越斎場建設事業の基本構想の前段階のものとして、整備方針(案)を示しました。

このなかで新上越斎場の方向性としては、①上越斎場は改築することとする、②施設計画の前提条件として、頸北斎場は長寿命化を図ることとし、柿崎、大湊、吉川区住民は引き続き、頸北斎場を利用することを前提とする。火葬炉設定にあたっては、現在、主に上越斎場を利用している住民に加え、妙高市の経塚斎場を利用している中郷区、板倉区住民の将来的な利用を見込んだものとす

る、③「将来の火葬需要や市民ニーズに対応できる施設」「人にやさしく、安心して利用できる施設」「効果的な施設整備と効率的な斎場運営」などを建設事業の基本コンセプトとする、の3点を示しました。

新斎場は火葬炉を6基程度、動物炉1基、待合室、多目的室、集骨室、告別室のほかキッズコーナー、授乳室などを設けるといいます。面積は約2000~3000㎡です。

説明後の質疑では、関連民間業者の経営を圧迫しない配慮、合併特例債の活用、建設予定地における土砂災害の危険性のあるなし、頸北斎場、経塚斎場の将来の利用者などについて多くの質問が出ました。

市側は「合併特例債は有用な財源として活用していきたい。事業費などは基本構想を固める中できちんとまとめて行く」「びょうぶ谷で確かに土砂崩れがあったが、都市整備部を含めたチームで現地確認するとともに、新井砂防の知見も借りて、イ

エローゾーンではないと判断した」「民間活力の活用については、可能かどうかを来年度調査させてもらい、プラスに働くとになれば、導入していきたい」などと答弁しました。

質疑の中で注目したことのひとつは将来構想です。

14市町村が合併して広い市域になっているなかで、1か所に集約することについては一昨年から関係住民の激しい反発の声が出ていました。そうしたことを受けて、「広域なので、もう1つ、2つあってもいいのではないか」(飯塚委員)などの声も出ていました。また番外発言をした丸山議員も経塚斎場利用者が将来、新斎場を利用することを見込んでいることに疑問の声をあげていました。

頸北斎場については、基本方針(案)で「頸北斎場は長寿命化を図ることとし、柿崎、大湊、吉川区住民は引き続き、頸北斎場を利用することを前提とする」とあったので安心していましたが、やりとりの中で、市側は、新しい上越斎場の火葬炉は頸北地区住民の将来の利用も考慮して6基としているとのべました。新潟市では斎場は5つ、長岡市では6つあります。東京都の面積の半分にもなる広い市域を抱える上越市で斎場を1つにするというのは無理があります。

今後、大いに議論していかなければなりません。



【ヒメオドリコソウ】再掲です。シソ科の越年草。漢字で「姫踊り子草」と書きます。花言葉は「愛嬌」。気温が高かったせいか、春の花がこの花を含めいくつも咲いています。写真は12月23日、吉川区大乘寺にて撮影しました。



土砂崩れで竹平―藤尾間の県道通行止め…何としても早期復旧を

27日の午後、地すべりが発生し、県道大湊高柳線の竹平―藤尾間が通行止めとなっています。私は28日午前、平良木前市議(県議選予定候補)とともに現地に入り、地元の人たちの要望をお聴きしました。何としても早期復旧を実現させたいものです。



こんな形の切り干し大根も(大島区にて)

はしづめ法一の
活動レポート

No.1890 2018.12.30

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

カタカナ語はあまり使わない方がいいという声を時どき耳にします。たしかにアイデンティティなどといった難しい言葉を使われると、さて、どういう意味かなと考えてしまう人が多いのではないのでしょうか。

でも、先日、叔父が入所しているグループホームへ行ったとき、「サンキュー」というカタカナ語を楽しく使っている場面に出会い、「こりゃ、いいもんだ」と思いました。

この日、私がグループホームに着いたのは午前九時四十五分頃だったと思います。玄関で職員さんに、叔父に会いたいと伝えると、談話室に案内されました。叔父はそこでくつろいでいて、私の顔を見ると、すぐニコニコしました。

叔父がいた談話室は中央部に大きなテーブルがあります。そこで新聞を読んだり、お茶を飲んだりしているのでしょうか。私は叔父の隣に座らせてもらいました。

イスに座るとまもなく、叔父は、「何も出さないでわいのね」と言いました。たぶん、自分の家でお茶などを出していたから出た言葉だったのでしょう。私からは、「なして、なして…」と返事をしました。そうこうしているうちに、職員さんの一人の女性が「コーヒーとお菓子を私たちのところに持ってきてくれました」。

そのときのことです。叔父が「サンキュー」と言うと、「この女性が「サンキュー」と応じました。「サンキュー」を「三球」にひっかけ、「ヨンキュー」(四球)と言ったのです。とても楽しい雰囲気になっっているのは驚きました。

叔父の前のテーブルの上には拡大鏡が置いてありました。「拡大鏡かね」とたずねたところ、叔父は「新聞読むにも読まんねかか」と言いました。手にとってみる

と、取っ手の部分がカーブしていて、しゃべっています。「なかなか恰好(かつこう)いいもんだね」と言いながら、どんなふうに見えるのか、試してみました。大きく見えて、とても便利です。

コーヒーをいただいていると、叔父が声をかけてきました。

「おまん、車で来たがが」

「はあ、車だこてね」

「一時間、かかったらね」

「なして、一〇分だわね。後生寺からだって一〇分そこそこだわね」

「そいがか」

一時間かかったらね、と聞かれたときは、「えっ」と思いましたが、叔父は何か勘違いしたのでしょうか。走行時間については、それ以上話をしませんでした。

この日、叔父が一番心配していたのは雪でした。私は携帯電話に入っている最近の風景写真を見せようことにしました。灰庭で撮った米山の写真、下中条から撮った尾神岳などの写真を次々と見せると、叔父は集中して画面を見てくれました。あまり外の景色を見ていないのかも知れません。

今回も母の写真を見せられてもらいました。もちろん、携帯電話の中にある画像です。叔父は手を合わせ、「ばちや、おはよう」と写真の中の母に声をかけてくれました。そして、私にこういったのです。「オレ、自分の間ここにいるわ。ここにいりゃ、みんな、してもらわれるもん」と。私からは、「そうしない、そうしない。雪かまいしねでいいかね」と言いました。

私が施設にいたのは二〇分ほど。帰ると言うと、叔父は玄関の外まで見送ってくれました。車の窓ガラスを開けて手を振ったら、叔父も手を振って、また言いました。「サンキュー」。うれしかったですね。

禁煙ポスターカレンダー

カレンダーになった今年度の禁煙ポスターコンクール(新潟県主催)の入賞作品を見せてもらいました。

この作品は上越市立吉川中学校の1年生、渡辺雄斗さんの作品です。コンクールでは最優秀賞(中学生の部)を受賞しています。審査員からは、「受動喫煙リスクについてのメッセージと絵の強いインパクトが印象的な作品」「シンプルな構図で色調も明快でインパクトがある」などと評価されました。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月19日(水)	12月25日(火)
上越南消防署	0.047	0.047
上越北消防署	0.043	0.043
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.043	0.047
頸南消防署	0.050	0.053
東頸消防署	0.040	0.053
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.040	0.053

桜の木の襷絵

先日、寺町にある日蓮宗長遠寺の襷絵をみせていただきました。桜の花びら一枚一枚が丁寧に描かれているのには感動しました。家の中で一年中咲いているとは羨ましい。絵は戦後間もなく描かれたということです。

